

## 【学問のすすめ】から学ぶ

### 文明的進歩と新時代に必要な思想について

22211103 可知 邦一

#### 1. 中津藩士から幕臣時代 封建制度に対する価値観について

万延元年にかの有名な咸臨丸に乗り渡米した後、幕臣として取り立てられて明治維新を迎えるまでに文久欧州使節団などの外交事業を歴任していくことになるわけであるが、最初は立場的にはただの一介の藩士であった。

幕府の威信を賭けた咸臨丸に乗っての渡米など夢物語である。しかし、福澤の渡米に対する熱意は幕府の軍艦奉行である木村芥舟の心を動かすことになり、結果的に渡米をする。ここから彼は瞬く間に出世していく、このことにより彼自身が元来否定していた権威や封建社会に取り込まれるような形となったことは皮肉な話ではないだろうか。

福澤は現在では啓蒙思想家と評されることも多い訳であり、私自身も学問のすすめを読んだだけでは、封建制度を忌み嫌い合理主義で富国強兵を目指すために開明思想を説いているのだと考えていたのだが、資料を調べていく内にこれ部分的にはあっているが、少し違うと考えるに至った。

私なりに解釈をするなら、旧態依然とした体制が多少残っているとしても、至上命題として欧州諸国に植民地化されないために国家が発展する必要があるということを実現することができるのであれば、利用できるものは利用するというのが福澤の啓蒙思想なのではないかと、私は考える。

#### 2. 男女平等と自己責任論 福澤の思想に対する疑問

彼が人間の平等を意識していたということは、後年の男女観念や封建制度に対する批判から見るができるであろう。

はたして、人間を平等に扱うことが本当に幸福に繋がるのであろうか。私は福澤の本を通して、文明的発展をすることが人間の幸福に繋がるのかという疑問を更に深める結果となった。例えば、福澤は男女平等を生涯に渡り説いているわけであるが、現実としてどうであるか、結果的には明治初期よりは明らかに平等になりはしたが、その代償として性別間の分断を招き社会は混乱をして、他者に憎悪を抱くようになっていないかと考えてしまう。

自己責任論にしてもそうである、学問のすすめでは何回も学問を納めないのは自己責任であり、努力をしていないことがあるで悪であるかのような言説があるわけであるが、21世紀を生きる我々は本当にこの自己責任論が正しいのかを思考することができるまで文明的に進歩することができているのではないであろうか。

#### 3. 文明的進歩と精神的退廃

1で前述した通り、福澤は文明的に進歩することを最重要としたわけであり、文明が発展した後のことは熟慮していなかったのではないかと考えずにはいられないことは2で触れた通りである。

何故、福澤の描いた未来の社会が実現しなかったのかを考えることが、現代に生きる我々が啓蒙思想に対して一番の学びを得ることができる部分であると考えているのではないだろうか。

この問題に関しては、やはり文明を優先するあまりに人間関係の希薄さや心的不安により精神的に成長をすることができなかったことが要因として大きいのではないかと考える。